

審つて、話して、自ら気づく

「親の力」をまなびあう学習プログラム

「自分の親は将来の自分」期（子育て準備期）
「親はウルサイけどアリガトウ」編
（中学・高校生などの青少年を対象としたプログラム） その3

おや！ おや？

～自分のあゆみと親の関わり～



イラスト：うじな かずひこ

中学生・高校生など青少年の時期は、自分の親でさえも口うるさく感じる場合があります。

「親になるって、どんな気持ちなのだろう」「親になったら、どんな生活が待っているのだろう」...想像力を働かせて、ちょっぴり「親」になってみませんか。自分と親との関係にも、少しは変化が現れるかも！？

<思い出して書きましょう>

オギャーと生まれてからこれまでの、自分の「あゆみ」をふりかえってみましょう！
(思い出したくないこと、書きたくないことは書かなくていいよ。人に見せる必要もないからね。)

年月日	年齢	父・母の 年齢や対応	自分のできごと	日本や世界の 主なできごと、流行など
	0			
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			

自分の「あゆみ」のなかで、今思い出してみれば、親（保護者）に「ありがとう」「ぷんぷん」「ごめんなさい」と言いたいできごとはないですか。よく思い出して書いてください。

<p>ありがとう</p> 	
<p>ぷんぷん！</p> 	
<p>ごめんなさい</p> 	

<出し合いましょう>

グループの中で、「私のありがとう、ぷんぷん、ごめんなさい」を出し合ってみましょう。（人に言えることだけでいいよ。パスあり！）

やがて、いつかはあなたも「親」になるでしょう。

親になった「未来の自分」に、今の自分からメッセージやアドバイスを届けてください。

親になった自分へ（ 年 月 日記入： 歳の自分より）

<学習を振り返りましょう>

自分のなかで、わかったこと、考えが変わったことがあれば、書いてみましょう。

県民の皆さんから寄せられた声（平成18年度広島県教育モニターアンケートより）

- ・セラピーの先生から、子育ての最終目標は“親が死んでも生きていけるようにすること”と言われました。いつでもこの言葉を心の中で繰り返しています。
- ・親が同じことを繰り返すほど、子どもの耳には入らなくなるようです。親類や友だちの親など、子どもにとって、少し距離があるけど信用している人からそれとなく注意（気を向ける程度で十分）してもらえると、良いようです。
- ・長男、次男共に中学の時に非行に走りそうな時期がありました。親の方は常に子どもと向き合っているつもりでも、実際には他に何か大きな問題を抱えてしまうと、気持ちが子どもに向いていない時があります。中学生・高校生と体は大きくなっていても、子どもたちはいつも親に自分の方を向いていて欲しいと思っています。母さんにとってはあなたが一番だいじな宝物なんだと話しました。



お問合せ：〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47 広島県立生涯学習センター
TEL：082-248-8848 FAX:082-248-8840 E-mail：sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp